

脈の異常を見逃さないで

あなたの健康相談

Q 心電図検査で期外収縮を指摘されましたが、特に症状がないので放置しても大丈夫ですか？

A 健康な人の心臓は、規則正しく1分間に60〜100回のペースで拍動を繰り返しています。このリズムを「洞調律」と呼びます。洞調律は、心臓の右心房にある「洞結節」という部分が発生させる電気信号によって作られ、その信号を心室筋が受けて拍動が生まれます。

一方、期外収縮は、通常のリズムに突然割り込んで、洞結節以外の部分から早めの電気信号が発生する現象です。信号が心房から起きる場合を「上室性期外収縮」、心室から



の場合を「心室性期外収縮」といいます。

期外収縮は、健康な人でも自分では気づかないうちに起こることが多く、ほとんどの場合は特に心配ありません。しかし、無症状でも頻繁に起きる場合や、ドキドキする、脈が飛ぶ感じ、胸の痛みや圧迫感、倦怠感、めまい、ふらつき、失神といった症状が出る

異変を感じたら
早めに医療機関を
受診しましょう



北村内科クリニック
院長 北村 秀綱

神戸大学医学博士。日本循環器学会認定 循環器専門医。神戸大学医学部を卒業後、神戸大学病院や民間病院で20年以上多数の心臓ペースメーカーやカテーテル手術をはじめ、生活習慣病や人工透析にも携わる。2017年より北村内科クリニックを開設し、現在は、専門分野である循環器・呼吸器疾患を中心に、美容医療も手掛け、地域のかかりつけ医として幅広い年齢の患者さまを診察する。

と、治療が必要なこともあります。治療方法には、薬物療法やカテーテルアブレーション(カテーテルを使った治療)があります。

特に心室性期外収縮は、心筋梗塞や心筋症などが原因の場合があり、危険な不整脈を引き起こして突然死につながることもあります。一方で、上室性期外収縮で

あっても、発作頻度が多い場合や連続して起こる場合は、心房細動へ進展し、脳梗塞のリスクが高まることがあります。

期外収縮には、症状が出ていない軽度の場合から、重症化する場合があります。様々な種類があります。検診で指摘された場合は、少しでも異変を感じたら早めに受診することが大切です。